

# 公益社団法人 日本農芸化学会

## 2022年度 関東支部例会

報告者: 鈴木道生(東京大学大学院農学生命科学研究科)

11月26日の秋も深まる中、非常に天候に恵まれた日和において、2022年度 関東支部例会が3年振りに東京大学農学部弥生キャンパス内の弥生講堂にて完全対面にて開催されました。

2022年度日本農芸化学会大会 奨励賞受賞講演が3件(関東支部では4件が受賞対象となっております)、2022年度日本農芸化学会大会 トピックス賞受賞講演が19件行われました(1件は奨励賞と同時受賞のため同時講演となりました)。全体で62名の参加者となりました。

分野	環境科学 バイオマス利用	有機化学 天然物化学	酵素	食品	微生物	動物	植物	生物化学
総数 1346	58	232	66	324	391	83	107	85
選抜 28	2	4	1	9	9	0	2	1
割合%	3.4%	1.7%	1.5%	2.8%	2.3%	0.0%	1.9%	1.2%
関東 19	2	2	1	8	5	0	1	0

2022年度京都大会ではオンラインでの開催であったことから、全体の発表数としては1346題ということでやや少ないという印象でした。その中から28題がトピックス賞に選出されました。この内で関東支部に関するものは19件ありました。分野としては、3件の奨励賞講演は有機化学、微生物、酵素の分野の先生方が受賞し、トピックス賞では食品分野が8件、微生物分野が5件と多いのですが、ご講演内容は動物から植物、微生物、有機化学から酵素学まで様々な分野が網羅されていると非常に感じました。このような受賞講演を一度にまとめて聞くことができるのも、この例会の魅力かと思っています。下記はそれぞれのご講演者のご講演タイトルです(裏面に続く)。

### <2022年度奨励賞受賞講演 3件>

勝田 亮(東農大生命科学)

「量子化学計算により効率化した生物活性天然有機化合物の合成と構造の解明」

田中 瑞己(農工大院農)

「麴菌による有用タンパク質高生産を目指した転写および転写後発現制御機構の解析」

熊野 匠人(筑波大生命環境系)

「天然化合物代謝に関わるユニークな酵素の発見と機能の解明+トピックス賞」

### <2022年度トピックス賞受賞講演 19件>

戸田 安香(明大農・農芸化)

「霊長類における旨味受容体のヌクレオチド感受性と食性の関わり」

飯嶋 益巳(東農大・応生・健康)

「ウイルス膜モデルを用いた紅茶の抗ウイルス活性のナノレベル可視化」

笠原 洋一(東大農)

「新規塩味受容分子Transmembrane channel-like 4の機能解析」

野仲 葉月(東農工大農)

「中鎖脂肪酸油の質の違いによる代謝機能変化を制御する脂肪酸受容体GPR84」

山本 広史(東大農)

「ポリフェノール修飾タンパク質に対する高親和性ペプチドの解析」

綾部 達宏(キリンHD・中央研)

「ホエイ由来ペプチドβラクトリンはマウスおよびヒトiPS細胞由来アルツハイマー病モデル神経細胞のミトコンドリア機能異常を改善する」

福本 沙弥(マルハニチロ株式会社)

「MALDI-TOF MSを用いた食品希釈液からの直接同定方法の開発」

大野 直土(キッコーマン株式会社)

「機械学習を利用した機器分析によるしょうゆの官能的な特徴の予測」

佐藤 由也(産総研・環境創生)

「害虫と共生細菌にみる相互協力的な農薬解毒メカニズム」

千葉 夏乃(ダイセル・事業創出C)

「複合微生物系による機能性代謝物の生産に関する研究(1) – 水素生産菌を利用したエクオール発酵生産 -」

永久保 利紀(筑波大院・生命環境)

「土壌微生物と共存する新規ウイルス様粒子の生物学的意義」

木伏 真子(早大院・先進理工)

「実験室内および野外ダイズにおける根圏細菌叢の時空間変動解析」

鈴木 遼太(キッコーマン 研開本部)

「乳酸センサ用フラビン依存性乳酸デヒドロゲナーゼの探索および特性評価」

手塚 大介(農研機構・生物研)

「ゲノム編集酵素の直接導入による多収性オオムギ品種の開発」

若井 暁(海洋研・超先鋭)

「光刺激応答性バイオナイロンの海洋生分解性評価および分解性微生物の特定」

三根 健太郎(日清食品HD(株) グローバルイノベーション研究センター)

「油脂酵母 *Lipomyces starkeyi* を用いた食用代替パーム油の開発」

日比 玄紀(東大農)

「アミプリマイシンに含まれる特殊アミノ酸の生合成機構の解析」

宮澤 和(長谷川香料(株))

「バラの重要香気成分であるDAMASCENOLIDEの類縁体合成と香気特性(第3報)」

コロナ禍での開催ということで懇親会も開催できなかったことから、参加者数はコロナ前ほどは多くはありませんでしたが、質疑応答が活発に行われ、どの講演も時間一杯まで質問が出ていました。このような対面での学会活動が徐々に戻ってきていると改めて実感しました。最後に例会にて講演して下さった皆様、ご参加下さった皆様、運営をお手伝いして下さった支部幹事の皆様に感謝申し上げます。



会場(一条ホール)の様子